

虎塚古墳 壁画見学ツアー 報告

開催日：平成23年11月6日(日)

昨夜の雨に濡れる千葉駅前を講師大塚初重先生を含む22名は、一路茨城県行方市三味塚古墳に向けて出発した。三味塚古墳は、霞ヶ浦北岸の沖積低地に営まれた全長85mの前方後円墳で、昭和30年に大塚先生が発掘調査された古墳である。その大部分が国の重要文化財に指定されている副葬品は、後円部中央の深さ2.7mで検出された箱式石棺から、馬をモチーフとした飾りがついた金銅製の冠、金銅製の耳飾り、鏡、大刀などが、石棺の北方50cmほどの位置で発見された副葬品埋納用施設からは、大刀、鉄鏃、短甲、挂甲、衝角付冑、馬具などが出土している。この地域における5世紀後半代の盟主的性格もつ古墳と位置づけられている。

バスによる移動中は、大塚先生の独演会であった。発掘調査に至る経緯、発掘調査の状況、出土品の詳細、三味塚古墳の位置づけなど、エピソードを交えながら、大塚先生ならではのユーモアあふれる語り口でわかりやすく説明していただいた。特に、発掘を始めてすぐにかなり深い盗掘坑を発見し、「俺が主任として最初に行う古墳の発掘はスカか！」



と思いつつもあきらめずに調査を進め、ついに内部主体を発見した執念には、参加者一同感嘆の声をあげていた。

1時間半ほどで現地に着いた。霞ヶ浦堤防工事のため、西側の1/3ほどを削り取られてしまった墳丘は見事に修復整備され、全長85m、後円部径47m、前方部幅36.5m、後円部高6mの大型前方後円墳が堂々と再現されていた。小雨に煙っていたため、古墳の上からの霞ヶ浦や筑波山の眺望を楽しむことはできなかったが、後円部墳頂には副葬品の出土状況の実測

— 三味塚古墳後円部墳頂にて —

図が原寸大で陶板に焼き付けられて、発見された位置の上に設置されており、これを囲んで先生からさらに詳細な説明と伴に熱心な質疑応答が行われた。

次に、今回のツアーの最大の目的地であるひたちなか市虎塚古墳に向かった。虎塚古墳は、昭和48年の勝田市史編纂を目的とした発掘調査によって、後円部に設けられた南向きに開口する横穴式石室から白色粘土の下地にベンガラで描いた壁画が発見され、国の史跡に指定された。壁画は保存状況を勘案しながら、春と秋に1週間程度ずつ一般公開されている。墳丘規模は全長56.5m、後円部径32.5m、前方部幅38.5m、後円部高7.5mで、横穴式石室からは成人男性の遺骸1体、鉄鏃、ヤリガンナなどが出土し、築造年代は7世紀前半代と推定されている。

車中では、大塚先生が壁画発見の経緯やエピソード、壁画の内容などをおもしろおかしく、かつわかりやすく話してくれた。特に、未開口の石室の調査に先立ち、内部の温度・湿度・空気の組成・微生物の有無などを科学的に調査した例は、日本を始め、世界にも例がないという説明に、一同感心しきりであった。また、虎塚古墳では石室内への出入りを厳密に管理していること、発掘調査時から鴨志田篤二氏がずっとこの古墳を見守っていたことが、壁画を保存する上で大きく作用していることを、高松塚古墳の場合と比較しながら説明してくれた。

途中から鴨志田さんがバスに同乗し、以後の道案内をしてくれた。虎塚古墳へは午前の

部の公開終了間際に到着したが、鴨志田さんや現地の方々のご好意により、すぐに壁画を見学させていただくことができた。大塚先生からは、「一組3分位しか見学できないので、あらかじめ、見る場所を考えていくように」とのアドバイスがあったが、各組とも5分間ほどの時間を取ってくれ、担当職員が丁寧に説明してくれた。白と赤のコントラストが鮮やかで、稚拙ではあるが死者への追悼や厚葬、除魔の思いが込められた壁画の実物に触れ、一様に「感激した!」「すばらしい」という声をあげていた。



—虎塚古墳壁画原寸大模型—

小雨が降り始めたため、十五郎穴横穴群の見学は中止とし、虎塚古墳からの出土品や壁画の原寸大模型などを展示している「ひたちなか市埋蔵文化財調査センター」を見学することとした。センター内には、ひたちなか市内から出土した旧石器時代から奈良・平安時代まで出土品が展示されていた。鴨志田さんと十五郎穴横穴群の国史跡指定に向けた発掘調査を行

っているセンター職員による説明もあり、一同それぞれに興味深げに見学していた。



—大塚先生を囲んでの記念撮影—

続いて、馬渡埴輪製作遺跡に向かった。ここも、大塚先生が発掘調査された遺跡で、昭和40年の最初の発掘には、鴨志田さんが高校生で参加していたとのことである。この発掘が鴨志田さんの人生を方向付けたのかもしれない。馬渡遺跡は、5世紀末から6世紀に頃に操業されていた埴輪製作場である。発掘調査により、埴輪を焼いた窯跡19基、工房跡12軒、粘土採掘坑25基、工人た

ちの住居跡2軒が発見された。それらの遺構は、外郭を低木の植え込みによって表示されている。原料の粘土採掘から形を作り焼き上げるまでの一貫した工程がわかる遺跡として、昭和44年に国の史跡に指定された。当時の埴輪製作工人たちの生活に思いをはせながら、鴨志田さんの案内で遺跡を一周した。

最後に、那珂湊の魚市場に立ち寄り、家族へのおみやげや晩酌の肴を買い込み、千葉への帰途に着いた。虎塚古墳の壁画をメインとして三味塚古墳と馬渡遺跡を回った今回の見学ツアー、直接、発掘調査の指揮を執った大塚初重先生を講師に迎え、要所要所で遺跡の内容や意義について、調査の裏話などを含めてお話をうかがった。また、現地ではその遺跡を最もよく知っている方からの説明を受けた。非常に有意義で、満足度の高い1日であった。午後6時に出発地の千葉駅前で、無事に解散した。